

セクシュアリティ人口学の現在とこれから
Demography of Sexuality: Current State and Future Prospects

組織者：釜野さおり（国立社会保障・人口問題研究所）

Saori Kamano

(National Institute of Population and Social Security Research)

s-kamano@ipss.go.jp

現在、原書房人口学ライブラリーで『セクシュアリティの人口学』（小島宏・和田光平編著）の刊行に向け、編集が進められている。また、科研費プロジェクトでも人口学の文脈においてセクシュアリティを取り上げる研究がみられるようになってきている。本セッションでは、日本の人口学およびその関連領域で行われているセクシュアリティにかんする研究の Overview として、『セクシュアリティの人口学』の分担執筆者による3件の報告（第1、2、7報告）および「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」をはじめとする科研費プロジェクトの研究にもとづく10件の報告を行い、人口学の重要なテーマであるにもかかわらず、日本においてあまり活発に行われてこなかったセクシュアリティ研究の現状を概観する。これらの報告に対し、2名の討論者（小島宏：早稲田大学、林玲子：国立社会保障・人口問題研究所）からコメントをいただき、今後どのような研究が必要なのか、どのように研究を進めればよいのかを考えるきっかけとしたい。

第1報告：『セクシュアリティの人口学』から、「社会経済的要因にみる婚外交際行動」

報告者：鈴木 俊光（中央大学）toshimitsu.suzuki.u8r@cao.go.jp

Relationships among Socioeconomic Factors and Extra-Marital Affairs, from *Sekusharithi no Jinnkougaku (Demography of Sexuality)* [SUZUKI Toshimitsu (Chuo University)]

本研究では、パートナー以外との性交渉である「婚外交際行動」が行われる要因について、経済学的枠組みを用いて、主に就労面について着目し、分析を行った。当日の報告では、「婚外交際行動」について、人口学的要因および社会経済的要因に関する先行研究とともに、本研究における分析結果を紹介する。

第2報告：『セクシュアリティの人口学』から、「セックスレス・カップルと価値観：出生力とセクシュアリティの観点から」

報告者：森木 美恵（国際基督教大学）moriki@icu.ac.jp

Sexless Couples and Their Family Values: Analyses from the Viewpoint of Fertility and Sexuality in Japan, from *Sekusharithi no Jinnkougaku (Demography of Sexuality)* [MORIKI Yoshie (International Christian University)]

本報告では、セックスレス・カップルの概要とセックスレスと家族がかかわる価値観の分析について述べる。また、類似の学術的報告において使用されている「セックスレス」が関わる語彙を精査し、現状の問題点を論じたうえで、学際分野としてのセクシュアリティ研究についても検討する。

第3報告：『セクシュアリティの人口学』から、「SOGI と社会的属性」

報告者：釜野 さおり（国立社会保障・人口問題研究所）s-kamano@ipss.go.jp

岩本 健良 (金沢大学) iwamot@staff.kanazawa-u.ac.jp

SOGI and Individuals' Social Characteristics, from Demography of Sexuality, from *Sekusharithi no Jinnkougaku (Demography of Sexuality)* [KAMANO Saori (National Institute of Population and Social Security Research) and IWAMOTO Takeyoshi (Kanazawa University)]

本報告では、日本で SOGI をたずねた数少ない無作為抽出調査である「大阪市民調査」を用いて、性的指向および性自認のあり方と、年齢、学歴、結婚の状況、子の有無、日本国籍か否か、親が日本国籍か否かなどの社会的属性との関連を提示する。性自認のあり方は出生時性別と性自認が同じか異なるかによってシスジェンダーかトランスジェンダーかを区別する。性的指向については、恋愛的惹かれ、性的惹かれ、性行動それぞれにおける相手の性別の情報を統合した指標と、性的指向のアイデンティティ（自分の性的指向をどのように認識しているか）の指標の双方を検討する。基本的な集計結果を提示することで、国内のデータに基づく分析がほとんどない SOGI と社会属性の研究の今後につなげたい。

第4 報告：アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラムの人口学的多様性

報告者：平森 大規 (法政大学) daiki.hiramori.43@hosei.ac.jp

Demographic Diversity of the Aromantic/Asexual Spectrum [HIRAMORI Daiki (Hosei University)]

近年メディア等で、「他者に恋愛的に惹かれることのない」アロマンティックや「他者に性的に惹かれることのない」アセクシュアルが取り上げられはじめている。その一方で、社会一般における知名度はまだ低く、学術研究も不足している。そこで本報告では、Aro/Ace 調査実行委員会によるウェブ調査「アロマンティック／アセクシュアル・スペクトラム調査 2020」(Aro/Ace 調査 2020)を用いて、日本における Aro/Ace 人口の詳細な実態を検討する。

第5 報告：X ジェンダー当事者の家族形成

報告者：武内 今日子 (東京大学・院) Kyoko5520@gmail.com

Family Formation among Non-binary People [TAKEUCHI Kyoko (The University of Tokyo)]

男女いずれでもないジェンダー・アイデンティティをもつ人々は、人口集団の量的把握から零れ落ちやすい主体であると言える。本報告では、トランスジェンダーの中でも既存研究で検討が不十分な X ジェンダー当事者が、日本において定位家族やパートナーとの関係をいかにして築き、いかなる困難に直面しているのかを、インタビュー調査に基づいてまとめる。その際、当事者が非二元的な生き方を志向するとともに、制度的に規定されている戸籍上の性別や身体加工といった複数の水準のジェンダーを生きていることに着目する。

第6 報告：生殖医療ガイドラインを適用しづらい挙児希望者の“ART”活用法の類型

報告者：布施 香奈 (国立社会保障・人口問題研究所) fuse-kana@jps.go.jp

藤井 ひろみ (大手前大学) fujiihir@otemae.ac.jp

A Study of Couples "Not Accounted" for in the Guideline for Reproductive Medicine Attempting to have Children Using ART in Japan [FUSE Kana (National Institute of Population and Social Security Research) and FUJII

Hiromi (Otemae University)]

本報告では、日本生殖医学会が提示している生殖医療ガイドライン（2021版）が適用されづらいと考える育児希望者が存在することを想定し、そうした人々が実際に行っている“ART（Assisted Reproductive Technology）”の方法を、当事者の報告（SNSなどの言説）に基づいて、類型化することを目指す。これを資料として、ガイドラインを補う生殖性支援の必要性について検討する。

第7報告：医療機関における家族と SOGI

報告者：三部 倫子（奈良女子大学）m_sambe@cc.nara-wu.ac.jp

Families and SOGI in Medical Institutions [SAMBE Michiko (Nara Women's University)]

本報告では、2019年に看護部長を対象に実施したアンケート調査や2020年に医療者にインタビューを実施した事例研究から、医療機関において SOGI や家族の多様性を踏まえた体制がどれだけ整っているのか、どのような先進的な取り組みがあるのかを紹介する。

第8報告：SOGI と社会階層

報告者：平森 大規（法政大学）daiki.hiramori.43@hosei.ac.jp

SOGI and Social Stratification [HIRAMORI Daiki (Hosei University)]

従来、SOGI（性的指向・性自認のあり方）と社会的不平等に関する研究では、性的マイノリティ当事者が学校や職場で直面する困難に注目してきた。その一方で、非当事者と比較した際の当事者の学歴や収入をはじめとする社会経済的状況については明らかになっていない。そこで本報告では、日本において数少ない SOGI をたずねている無作為抽出調査である「大阪市民調査」を用いて、SOGI に基づく階層・不平等の実態を描写する。

第9報告：SOGI と国際移住

報告者：申 知燕（昭和女子大学）jyshin@swu.ac.jp

SOGI and International Migration [SHIN Jiyeon (Showa Women's University)]

グローバル化の進展や交通・通信技術の発展により、人々はライフスタイルや価値観に合った生活の場をグローバルスケールで選べるようになりつつある。一方で、特定の国民国家における社会制度や文化は、一部の社会的マイノリティを国外に押し出す圧力を働かせることもある。とくに、SOGI をめぐる制度や社会的認識は国家間で大きく差があるため、より自分らしく生きられる場所を求めて海外への移住を決心する人々もみられる。そこで本報告では、性的指向を理由に国際移住を实践した移住者に対するインタビュー調査結果から、個人の SOGI、および社会の性的マイノリティに対する制度や視線が、国際移住に及ぼす影響について検討する。

第10報告：大阪市における性的マイノリティの空間分布

報告者：山内 昌和（早稲田大学）yamauchi-masa@waseda.jp

Spatial Distribution of LGBTs in Osaka City, Japan [YAMAUCHI Masakazu (Waseda University)]

本報告では、大阪市民調査の個票データを利用して、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアル、ト

ランスジェンダーの人々を含む性的マイノリティの大阪市内での空間分布について検討した結果を示す。性的マイノリティと非性的マイノリティとでは空間分布に違いがみられたが、回帰モデルを適用して人口学および社会経済的な属性を統制すると、その様な違いは統計的に有意なものとはならなかった。このため、性的マイノリティの空間分布に特有の地理的要因が存在する可能性は低いと結論づけた。

第 11 報告：同性カップルと国勢調査

報告者：釜野 さおり（国立社会保障・人口問題研究所）s-kamano@ipss.go.jp

Same-sex Couples and Census [KAMANO Saori (National Institute of Population and Social Security Research)]

本報告では、海外の人口センサスにおける同性カップル世帯の扱い状況を概観し、日本における近年の動きおよび 2017 年夏に実施した渋谷区パートナーシップ証明書の取得者および検討中のインタビュー調査の結果を紹介する。インタビューからは、国勢調査では同性カップル世帯の存在が想定されていないこと、当事者が回答しようとする際、調査を役所などの「公」向けの顔として捉えていることを示す語り、集計では無視されると知りながらも「ありのまま」を伝えようとしている語り、「世帯」「世帯主」「配偶者」といった用語に違和感を示す語りなどが析出された。

第 12 報告：SOGI 設問に対する郵送・ウェブ回答の項目無回答率・回答分布の比較

報告者：千年 よしみ（国立社会保障・人口問題研究所）ychitose@ipss.go.jp

A Comparison of Item Nonresponse and Response Pattern of SOGI Questions in Web-Mail Mixed Mode Survey [CHITOSE Yoshimi (National Institute of Population and Social Security Research)]

本報告では、2019 年に住民基本台帳から無作為に抽出した 15,000 人の大阪市民を対象にミックスモード方式（郵送・ウェブ）で実施した調査から、モード別に項目無回答率・回答分布について比較した結果を報告する。一般的に、性的指向・性自認(SOGI)に関する設問を含むセンシティブな設問については、社会的望ましきバイアスがかかりやすい。大阪市民調査で行った SOGI 関連の設問に焦点を当て、郵送とウェブで項目無回答率や回答分布がどのように異なるのか分析した結果を紹介する。

第 13 報告：社会調査における高年齢層の SOGI の捉え方

報告者：小山 泰代（国立社会保障・人口問題研究所）koyama@ipss.go.jp

How Older Adults Understand SOGI-related Questions in Social Surveys [KOYAMA Yasuyo (National Institute of Population and Social Security Research)]

昨今、社会における多様性に対する関心が高まり、社会調査においてもそうした多様性を把握することの重要性が増している。とくに、個人の基本的属性である性別については、各種の調査において、どのように分類し、捉えるかという試みが行われている。一方で、こうした SOGI（性的指向・性自認）に関連する項目に対する個人の関心の寄せ方や知識・理解の程度には幅があり、選択肢を細分化することで逆に誤回答を生じる可能性もある。本報告では、社会調査に SOGI に関する質問項目を設けたときに、高年齢層がそれをどのように受け取り、どのように回答するのかを、イ

ンタビュー調査の結果から概説する。

討論者1：小島 宏（早稲田大学） KOJIMA Hiroshi (Waseda University)

討論者2：林 玲子（国立社会保障・人口問題研究所） HAYASHI Reiko (National Institute of Population and Social Security Research)

※ 各報告は以下の助成を受けた研究に基づく。

- ・ 第3～第5報告、第8～12報告：平成28年度～令和2年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤研究（B））「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築（研究代表者：釜野さおり）」（課題番号16H03709）
- ・ 第6報告、第13報告：令和3年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤研究（A））「性的指向と性自認の人口学の構築——全国無作為抽出調査の実施（研究代表者：釜野さおり）」（課題番号21H04407）
- ・ 第7報告：平成29年度～平成30年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究活動スタート支援）「医療機関における家族——性的指向と性自認を軸とする患者・看護師の相互行為（研究代表者：三部倫子）」（課題番号17H06999）および石川県立看護大学2019年度学長裁量研究「性の多様性を踏まえた医療実践—先進事例から学ぶ」（研究代表者三部倫子、共同研究者影山葉子）
- ・ 第10報告：平成29年度～令和3年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（一般・基盤研究（A））「地理的マルチレベル現象の解明に向けた基盤的データの構築（研究代表者：埴淵知哉）」（課題番号17H00947）